

木材チップの敷設は雑草を抑制する

近年、身近な“みどり”に対する住民の期待が高まっており、公園等の都市緑化や自然に親しむための森林活用施設が各地で造成されています。それに伴い維持管理に対する面の労力も増大しており、特に植栽木周辺の除草作業が主要部分を占めています。そこで、植栽木周辺に木材チップを敷設（厚さ5cmと10cm）して、雑草の発生量を減らすことができるかどうか試してみました。

木材チップを敷設した場所では、雑草の発生量は大幅に少なくなることがわかりました。そして木材チップの敷設厚さは5cmに比べて10cmの方が雑草の発生量が少ない結果となりました（図-1）。今回の試験に用いたチップは、カラマツと広葉樹混合の2種類でしたが、雑草の発生抑制効果はチップの種類間で差は見られませんでした。また、チップを敷設した場合発生する雑草の種類も変化していました。チップ無敷設地にはマット状に根系が発達する手で抜き取りにくいイネ科牧草が多かったのに対し、チップを敷設した場合には手で除去しやすいキク科の植物に変わっていました。公園等の低木植え込み地では手で除草することが多いため、木材チップを敷設することは雑草の発生量を減らし、また手で抜き取りやすい雑草に植生を変化させるので、除草作業の軽減に役立ちます。

（防災林科）

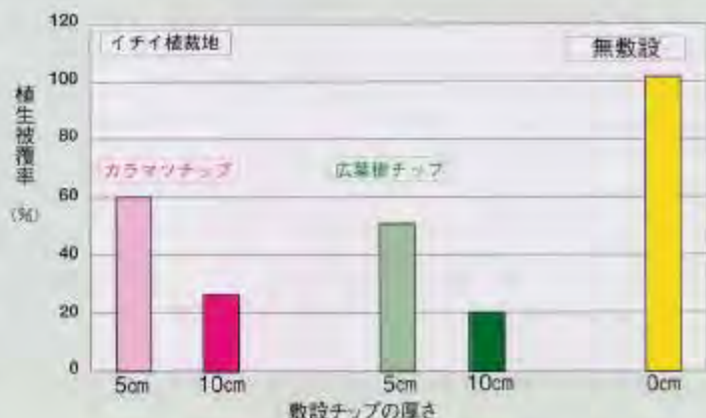


図-1 チップ全面敷設区における植生被覆率 (チップ敷設後2生育期経過)



写真-1 木材チップ敷設後3年目

右の無敷設区はイネ科牧草が繁茂している。
左のチップ敷設区はイネ科牧草が無く、根系が残っていたクマイザサが生育していた。



写真-2 林内におけるチップ敷設後2年目

右のチップ無敷設区は雑草の発生量が多いのに対し、左のチップ敷設区は雑草が発生していない。